



発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成11年8月1日
第20号

門連結成 40周年が巡りくる



門連常任理事
大橋 邦正

リレー提言⑩

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を挙げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

報恩の共同事業を策定し 積極的な推進を

昭和三十五年二月に日蓮聖人門下連合会が結成されて、明・平成十二年二月で満四十年を迎える。この四十年を顧みて主な業績として記録に残るのは、なんといっても日蓮聖人七百遠忌報恩記念共同事業として展開した左の四大事業であった。

昭和五十六年、日蓮聖人七百遠忌御正当年にあたり、第一に、聖祖御一代の御化導を演劇によってひろく世に顕彰するため、全国に五十四年、五十六年と二度にわたって公演した前進座による「日蓮聖人劇」。第二に、聖祖の御真蹟をはじめ各派格護の重宝類をあつめ、人々を正法に結縁させるべく、東京、大阪、小倉で開催した「日蓮聖人展」。第三は、翌五十七年三月に、門下連合会加盟教団の次代をになう青年達の結束をめざす「青年の船」の船出であった。第四は、昭和五十七年四月、報恩事業の掉尾を飾る「オラトリオ日蓮聖人」の製作完成と発表演奏会。という御報恩四大事業が門連各派共同の御報恩事業として、見事に成満をみたのである。

勇断もって改革すべき 身近な問題

近年、世間で行われる葬儀の実態が、時代の変化とともに多様化し時流のつって大衆の自己心と虚栄をあらわにするという、信仰と無縁の様相をみにつけ、信仰の風化だと葬送の主導者であるべき宗教師の、指導力の

欠如を指摘する声があがっている。人の死に対する葬儀は、習俗文化として歴史を反映して発達してきた。日本の仏式による葬儀一般の儀礼の構造は、正しくは、信仰の帰依対象たる本尊を奉安して三宝を敬い、その仏前において死者に戒名を与えて仏弟子とし、経文を読み聞かせて信仰の教義を伝える。そして最も大事な導師の引導作法により、仏弟子として寂光の本土におくるといふ、豊かな習俗文化を生んだ。

ところが近年、世間で行われる葬儀の実態をみると、葬儀は死者のために営むのが本筋であるのに、葬儀社のためにするの、遺族の義理や見栄、残った者たちの自己満足と世間態のためなのか、葬儀の真実が見えてこない。

現代社会・文化の変化はじつに激しいものがある。伝統の流れの中で定着していた村落共同体は、近代の物質文明のまに崩壊をたどり、都市では連帯共同の意識が稀薄になった。葬儀はかつての共同体で営む行事から、私事に变化したのである。その間隙を縫って登場したのが大型化する葬儀社であった。乱立する葬儀社として生き残るためにはしのぎを削る。華麗な演出など、儀礼化し、形式化し、かつ習俗化するさまざまな展開をみるにつけ、業者主導を廃して寺社主導の本来の葬儀の姿に戻すべきという声もあるが、寺社側の時代の変化に対応する事もなく、ことに本来あるべき葬送意義の指導力を欠いた現状では、思い切った改革の勇断実行がないと、世間主導の習俗の叛乱は続くであろう。

本来、葬儀は、信仰を紐帯として教義にもとづく厳粛な儀礼とともに、成仏への引導をわたり、迫害の回向功德を施して死者の永遠の冥福を祈るべきものなのに、多層な重なりをみせる日本人の宗教観がまるで変わってしまったのか。

もともと信仰とは距離を置いた日常のなかで、恐れる死の現実を直面して虚をつかれ、呆然自失してなすべしを知らないというのか、葬祭業者のいうがままに、現実的対応に逃げ込むというように、死をめぐると日本人の対応の意識がまるで変わってしまった。



法華經の教えを形に表した妙宗大靈廟
万人が仏子として平等にまつられる一塔合安式で、日々妙法の供養がなされている国柱会本部が所在する東京都江戸川区一之江の申孝園内に建立されている。
(昭和3年に田中智学師により創建)

最近の葬祭業者が演出する葬儀は、明るさがキーワードだという。BGMを流し花に埋められた祭壇に、祈りの対象となる御本尊はなく、ただ大きな遺影が飾られライトの光りで浮き上がらせている。僧侶は本尊なき祭壇に読経する。

仏教には死者を拜むという思想はない。葬儀は、死者に法名を授けて仏の弟子にして、その引導をわたす儀礼であり、そこに唱えられる経文は亡き仏弟子に対して、仏のみ教えを聞かせ功德を得せしめ、精霊の菩提増進を祈るものである。

伝統仏教寺院は、寺檀関係をもちて経営の基礎を形成していることはいうまでもない。寺檀関係にある寺院と檀信徒とのつながりは、先祖代々信仰を継承し、ふかく伝統に結びついた関係であり、家を単位とした関係である。この「家」制度が確立されている限り、寺院の宗教活動は揺るぎないものであった。しかし、このような寺檀関係は、安定すればするほど仏教そのものの本来の教化態勢を安易なものに陥れる危険性をもつのである。なぜなら「家」そのものが寺院を護持してくるだろうし、それに対して寺院は新しい時代の流れを研究したり、本来の目的たる衆生済度の積極的布教への情熱が失われてしまうからである。

社会が「家」単位の生活から「個人」単位の生活へと変化していくなかで、憂うべきことは各寺院が固定した檀信徒の葬儀・法要を営むことよってのみ、ふかく市民と結びつくという現状である。また、布教伝道の場としての機能をもつ寺院が、形式的、儀式的な葬儀法要の執行機関にしか存在理由を見出し得ないような存在になりかねない。

現実には信仰の類廃とともに、仏教界そのものが闇に沈もうとしている。もはやこの現実をみるかぎり、われわれの心の最後のよりどころを何処に求めたいのか、そのためには人間いかに生き、そしていかに死ぬかという原点に立ち返ることのほかにない。その死生観にもとづいて人生の意味を考え直し、勇断をもつて改革すべき時と痛感する。もはや改革なくして人間存在の内面性を象徴する「心」の宗教への回帰する機縁は生れてこない。

從地湧出

◆今、私たちが生きて行く上において、自分の考え、気持ちや相手に伝えるものは、言葉しかない。しかし、言葉というものは非常に難しい存在である。自分の気持ちや、言葉を通して相手に百分伝えている事は中々大変な事である。相手側の聞き方にも左右される。

◆古い昔の伝説に「指月の譬え」というお話がある。満月の夜、お寺の縁側で、師匠と弟子が語り合っていた。師匠は、満月に指を指し、弟子に「あれを見ろ」と言え、弟子は、月を見ずに指を見たとそうである。このお話は、言葉と言ふものは大変難しい、指から月の計り知れない長さほど難しさがある。

◆私は、以前から疑問を抱いていた言葉の中に「卒業」という言葉がある。言葉には必ずアンチテーゼがあり、相対論理の世界がある。卒業の相対語は、入学である。入の相対語は出である。それならば、入学に対して出でなければならぬのに、何故卒業なのか。素朴な疑問であった。

◆先日、漢和辞典で「卒」という字を調べてみた。「卒」とは集大成である。疑問が解けた。入るに対しては出るのであるが、学校(学ぶところ)を総合的にとらえた時、ただ、入って出ていくのではなく、その間、学んで来たひとつひとつの蓄積が集約された事を「卒」と言うのである。だから、出学ではなく「卒業」と言うのである。言葉は、確かに、重く、深く、含蓄のあるものである。

◆「大智度論」第九には、法の四依として、「依法不依人」「依義不依語」「依智不依識」「依了義經不依不了義經」と書かれている。日蓮大聖人がお示しになった妙法蓮華經は、まさしくこの心である。立教開宗七百五十年に向けて、何にも動じない法華經の真実の心をひとりでも多くの人々に伝えて行かなければならない。(源)

お願い
「門連だより」の継続発展のため各派の「ご協力」を切に願います。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会

立教開宗750年に向けての提言⁽³⁾

日蓮聖人門下「青年の船」から20年

本紙18号より、七百遠忌門下共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々と参加者にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくことになった。今回はその第三弾である。

更なる躍進を！

法華宗本門流 久野泰瑞

このたび「門下より」編集委員より、平成十四年に迎える宗祖日蓮聖人開宗七五〇年に向けての提言を記すようにとの依頼がありました。私は、宗祖七〇〇遠忌の折に門下連合会として報恩事業のひとつとして企画された「青年の船」に乗船した一人としてその当時を思い起こしながら私見を申し述べさせていただきます。

当時、船上では「太鼓クラブ」を担当し、その記録集には「日本古来の伝統邦楽の象徴的楽器の太鼓の講習」ということで、勇壮な太鼓のサウンドに共鳴した祭り好きな参加者の熱気溢れるパチパチ音が洋上に乱舞された」と記してあります。乗船によって多くの友人とめぐり合うことができ、宗祖滅後七〇一年の旅立ちに相応しい「青年の船」に参加させていただいたことに今なお感謝しています。

いま、宗祖開宗七五〇年を迎えようとしています。門下各派においても遠忌当時のような盛り上がりには欠けているような気がしてなりません。同じく門下の青年僧各師においてもまた当てはまることでありましょう。

ここ数年は、門下連合会の一大スローガンである「祖廟中心」の意識も軽薄となり、七五〇の合同記念事業も一向に進まないと聞き及んでいます。

さらに、結成後三十余年を経た今日において、門下連合会の在り方、目的・事業等を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。現状認識した上で門下連合会であって欲しいと考えます。そのためには門下関係各位の深い理解と包容、そして青年僧の熱い躍進と奮起を期待して、門下連合会ますますの御発展を祈念いたします。

『青年の船』を研修して

法華宗陣門流 江坂隆俊

日蓮大聖人七百遠忌記念事業の一環として「七〇一年の旅立ち青年の船」が実施され、すでに十七年を過ぎていく、それぞれの参加された方々は、世の中の中堅として活躍されていると思う。

戦争を知らない私達は、硫黄島、サイパン、グアムと太平洋戦域での戦没者慰霊法要は、戦跡を目のあたりにした戦争未体験者の世代にとって、強烈な感慨を抱くことも感涙したことを忘れることができません。

いま平和社会の実現の責務の重さを痛切に感じることが出来ます。帰寺後、当寺にも多くの戦没者英霊に、ひたすら御報恩の誠を捧げるのみであります。

日蓮聖人門下連合会が結集して、異体同心の実践の研修を、十一日間体験させていただいたことは、言葉に言い表すことのできない感謝の気持ちで一ぱいになる思いがいたします。

帰路に向かう全体の中で、反省として各ブロック別に特技イベント等

を痛切に感じることが出来ます。帰寺後、当寺にも多くの戦没者英霊に、ひたすら御報恩の誠を捧げるのみであります。

日蓮聖人門下連合会が結集して、異体同心の実践の研修を、十一日間体験させていただいたことは、言葉に言い表すことのできない感謝の気持ちで一ぱいになる思いがいたします。

帰路に向かう全体の中で、反省として各ブロック別に特技イベント等

けて実行すれば、もう少し交流がはかれたかと残念でなりません。

この「青年の船」が終わり、門下連合の継続的な青年有志の会のつながりを持ち続け、今後私たちが門下として「立正安国」をめざし、青年の船で培ったきずなを大切に、地道に重ねていきたいことと願っております。

門下各宗各派の立場を尊重して、一般の方々が現在何を求めているかを研究課題とし、青年僧を中心に人的交流を深めたいと考えます。

平成十四年は、日蓮大聖人の立教開宗七五〇年の節目であり再度門下連合の結集を願ってやみません。

「青年の船」の意義と世界的活動

国柱会 田中良則

七百遠忌の翌年に船出した、日蓮聖人門下「青年の船」の時から十七年の歳月が流れた。

当時、私は高校の教諭をしていた。日蓮聖人「青年の船」の企画運営には全く携わっていませんが、日蓮聖人を信じる青年達が、七百遠忌を機に集まって「めざせ立正安国」のスローガンで船を出すというのだから、これは是非参加しようというところで、乗船した。参加することに意義があると思つたので、それ以外に目的も別の心構えもなかった。

航行地にグアム・サイパンを選んだ意義については、聞かなかつたが、大東亜戦争での玉砕の島であるというところは、美しい風景を見ても、遊んでいても、意識のどこかにあつた。出発に際して、よく知っている方から、息子さんやサイパンで戦死したというところで、饒別をいただいたが、その時はそう深くは考えなかつた。

青年の船の「旅のしおり」にも「慰霊とは何だろう」「戦争とは何だろう」というテーマがあつた。硫黄島の近くを通過した時の洋上法要は今も印象に残っている。灰色の島をみて、あれが硫黄島かと思つた。今なお凄絶な感じがした。海への散華の後に流した「海行かば」のメロディーにはジーンときた。

サイパン島に着いた時は、数日船に乗っていたので、陸にあがるとゆれているような感じがした。そういう感覚が残っている状態で、戦跡を見学し慰霊法要をおこなつた。弾丸のあとに残る山の岩壁はすさまじい感じがした。ある場所では、鬼哭吠々というこぼれが思ひうかんできた。場所はどことか忘れたが、キ

リスト教で慰霊している牧師さんだかに会つたが、キリスト教では慰霊というのはどういう意味をもつのだろう。仏教では追福、追善の意味でとむらうのであるが、同じような意味だろうか。自分の信じるところで、念仏キリスト教等で追福を行つても、真の追福にはならないが、死者をとむらうという事柄については共通である。慰霊という事柄に対しては敬意を表わすべきであろう。日蓮聖人の宗教は崇一排斥（排他ではない）主義で、このことは、なかなか理解されない。他宗教とかかわっていく原則をかんがえなければならぬ。そんなことを思つた。

南洋の風土を珍しく思つたり、船で会つたいろいろな人のことなど、意識の底に沈んでいたことが、ふりかえると思い出されてくる。

今「青年の船」という事業を考えると、企画運営された方々の、根本の思想は必ずしも統一されないまま、実務上のレベルで協力しあつたという面があつたと思うが、その日蓮聖人観のちがいはあつても、聖人の信仰という一点に共通点を見いだし、聖人門下の青年の結集をはかつたことは、意義を有することと思う。

日蓮聖人は「月は西より東へ向へり、月氏の佛法の東へ移るべき相也。日は東より西へ入る、日本の佛法の月氏へ還るべき瑞相也。」（諫曉八幡鈔）と言われている。本化の大教が東から西にひろまっていくなことは、天体の運行よりも、たしかなことである。立教開宗七百五十年。日蓮聖人門下が世界的に動くべき時は来ている。異体同心への道を何としても歩まなければならない。

「立教開宗750年」

旅、こころ

パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでもそろっています。私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。

旅する人の気持ちで…… JTB



For Your TravelLife

素敵な「旅」をご提案します。

日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第4号

暑中御見舞

平成十一年己卯

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管 長	田中 日淳	護法伝道部長	上田 尚正
宗務総長	永井 祥文	立教宗七百年 顕彰事務局長	松井 義昭
宗務副総長	渡辺 一之	現代宗教研究所長	石川 浩徳
総合企画部長	加賀美泰全	国際開教室長	中條 令紹
庶務部長	小松 浄慎	人権対策室長	前田 幸廣
財務部長	篠原 智高	参 与	堀江 宏正
教務部長	二宮 将泰	参 与	浅井 玄裕
		日蓮宗新聞社長	垣本 孝精

〒146-8544 東京都大田区池上一丁目三十一番一五
電話 〇三(三七五)七二八(代)
FAX 〇三(三七五)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	松井 日俊
宗務総長	原 井 慈 鳳
教化部長	圓 成 淳 龍
教学部長	桃 井 晋 城
財務部長	坂 卷 顕 導
庶務部長	矢 吹 慈 英

〒170-0004 東京都豊島区北大塚一丁目二六番一四
電話 〇三(三九一)〇四七五(代)
FAX 〇三(三九一)八七九九

顕本法華宗宗務院

管 長	吉永 日晴	布教部長	阿曾 久成
宗務総長	中山 昭夫	庶務部長	三坂 岳忠
宗務次長	山本 学人	主 事	山本 晃道
財務部長	白井 謙光		多門 顕正
教務部長	奥村 智学		津村 乘信
社会部長	鈴木 無着		小松 正学

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	竹嶋 日香
宗務総長	土屋 善 敬
総務部長	都 築 哲 信
教学部長	佐 古 弘 文
教化部長	門 谷 東 生
財務部長	八 木 恵 岳

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五丁目三五番一六
電話 〇三(三九一)七二九〇
FAX 〇三(三九一)七二九〇

本門佛立宗宗務本庁

講 有	井上 日慶
講 尊	梶本 日裔
宗務総長	小山 日誠
宗務副総長	笹田 日昌
宗務副総長	佐藤 政司

宗務本庁役員一同
〒602-8377 京都市上京区御前通二条上る東堅町一〇番地
電話 〇七五(四六一)一五六(代)
FAX 〇七五(四六一)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀 日有
宗務総長	高見 正弘
総務部長	佐藤 哲夫
財務部長	岩崎 隆義
法務部長	岩崎 廣義
教学部長	岩崎 廣義

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長	真枝 日世
宗務総長	吉田 研宏
総務部長	上田 浩岳
教学部長	辻本 寛孝
教化部長	寺田 完英
社会部長	水野 日悲
財務部長	水野 智啓

〒602-8447 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六二
FAX 〇七五(四四二)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	松本 日望
宗務総長	高邊 信幸
宗務副総長	信 隆 允 忠
財務部長	増田 隆雄
総務部長	藤井 宏長
庶務部長	土井 信教
教務部長	音羽 隆全
門連常任理事	持地 光学

〒602-8148 京都市上京区寺ノ内通大宮東大妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

国柱会

宗教法人
会 長 田中 暉 丘
理 事 長 大橋 邦 正
副 理 事 長 入江 克 郎
門 連 理 事 秋 場 善 彌
門 連 理 事 淀 野 寿 夫

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一一九一八
電話 〇三(三五六)七一(代)
FAX 〇三(三五六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
電話 〇七五(七六二)二四一八
FAX 〇七五(七六二)九三三八

会 長 金山 日龍
副 会 長 赤田 日崇
理 事 長 杉 若 恵 隆
副 理 事 長 桃井 晋 城

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

首 座 塙 行 幸
長 老 石 山 定 光
長 老 吉 田 行 典
長 老 酒 井 天 信
長 老 今 井 康 信
長 老 西 堀 行 施
長 老 二 宮 和 嘉
長 老 老 井 行 順
事務局長 今井 行 順



特別局長
石田 清尚

慶讃事業の紹介

本門佛立宗におきましては、平成14年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七五〇年に向かって、平成四年より宗門の活性化と弘通意欲向上のため、宗門改革に取り組んでまいりました。そして、実質には平成八年小山内局を中心として「報恩ご奉公のスタート」を切りました。さらに、報恩ご奉公の推進と円成のため、平成九年宗務総局に特別局（高祖日蓮大士立教開宗七五〇年特別局）を設置され、報恩ご奉公、慶讃事業の実働段階に入りました。以下、宗務本庁特別局よりその概要を申し上げます。

七万五千人教化運動の展開

①この教化運動は全宗門人が教化親になる佛立信心の原点であります。この七万五千人教化必成のため、本年三月から六月にかけて、本門佛立宗開講記念日の十二日と立教開宗記念日の二十八日に「講有上人よりご慈折をいただく教化必成本山口唱会」を開催しました。

②この口唱会には全国十一支庁交代制により、毎回千数百人の教誨が本山御宝前に集い、執持を捧げ、七万五千人教化の早期達成をご祈願させていただきます。

③現在全国の寺院では、これに呼応して教化総運動が展開されています。

④七万五千人新入信徒教化育成に対応するため「教務増加促進運動」と「佛立教務見習養成所」を開催しております。

慶讃法要奉修

①平成十一年度全国十一支庁に於ける佛立青少年大会の開催

②佛立青少年大会開催



高祖日蓮大士
立教開宗750年

立教開宗750年シンボルマーク

一 概要

(1) 日時 平成十二年八月二十一日

二 場所

【佛立研修センター】
(滋賀県高島郡今津町) 及び今津町周辺

三 大会スローガン

「かがやけ佛立二十一世紀」

四 大会目的

青少年の人材育成を主眼とします。

五 大会運営組織

全国佛立青少年大会実行委員会規程による。

六 大会参加者

「全国佛立青少年」満七歳～三十五歳まで千五百名

七 交流の促進

各寺院・各布教区・各支庁間の連携強化を目指します。

二 七万五千遍口唱運動の展開

法灯相続運動の一環として、お題目口唱の大切さを感じてもらおうと、佛立青少年大会の成功を祈願し、全国青少年を対象に、七万五千遍口唱運動を展開させていただきます。

☆対象者

全国佛立青少年 満七歳～三十五歳迄

☆期間

平成十一年七月一日～平成十二年六月三十日の一年間

☆記録(利用法)

一 五分を一マス(二百遍)と計算し、〇印をつけて下さい。

二 お寺・お講・自宅等でお唱えした、すべてのお看経の時間を記入して下さい。



75,000人教化必成本山口唱会風景

☆表彰

一 口唱カードは、本山御宝前にお供えします。

二 優秀者は表彰し、記念品を贈呈します。

三 平成十三年慶讃別修法要

全国各支庁、布教区、寺院で高祖日蓮大士立教開宗七百五十年記念慶讃法要を奉修。

四 平成十四年慶讃総修大法要

高祖日蓮大士立教開宗七百五十年慶讃総修大法要を本山有清寺に於いて奉修。

五 平成十四年四月二十日(土)・二十一日(日)【一・三・九・十支庁】

・平成十四年七月十三日(土)・十四日(日)【一・二・五・七・八・海外支庁】

宗門改革

宗門改革につきましては、平成四年十二月十四日第百三十九回臨時宗

高祖日蓮大士立教開宗750年報恩
75,000遍口唱カード

佛立青少年大会
～平成12年8月26・27日～

氏名 (年齢 歳)

枚目

信心は唱ふるにありよるひるに 功德つみてぞ 御利益となる

スタート! 年 月 日

75,000遍口唱カード

724.00

75,000遍口唱

750年に向けた 各派の具体的な動き②

宗立佛立本門



今津佛立研修センター、第一研修館全景

記念事業

①今津佛立研修センター「第一研修館」竣工
宗門では、去る平成元年にお迎えした本門佛立宗の開教導師日蓮聖人の百回御遠諱記念事業の一環として、滋賀県今津町にある妙見山（JR湖西線近江今津駅北西四キロ、スキーのメッカ箱館山から二キロ、琵琶湖岸から四キロの風光明媚な場所）の一部（十四万平方メートル）を「佛立研修センター用地」として入手しました。このセンターにこのたび宗門

会において「宗門改革特別委員会規程」が承認、新設されました。この宗門改革は、宗門の現状を直視し、二十一世紀の宗門の発展を実現するため、高祖日蓮大士立教開宗七百五十年を目指し、宗門挙げて刷新に取り組み、改良運動を実践することを目的として誕生し、プロジェクトチームを編成し、実行計画策定及び具体化を進めてまいりました。本年は特別委員会推進本部から引

き継いだ事項を、宗務執行当局に於いて実行可能なところから改革を実現しています。

二、三の例を上げれば
※今期内局当初から実施した「局機構の縮小と、それに伴う経常費の削減」
※宗制改正特別委員会の設置による宗制の再検討と改正作業。
※財務処理・財務管理・監査機能等の見直しと改善に着手。

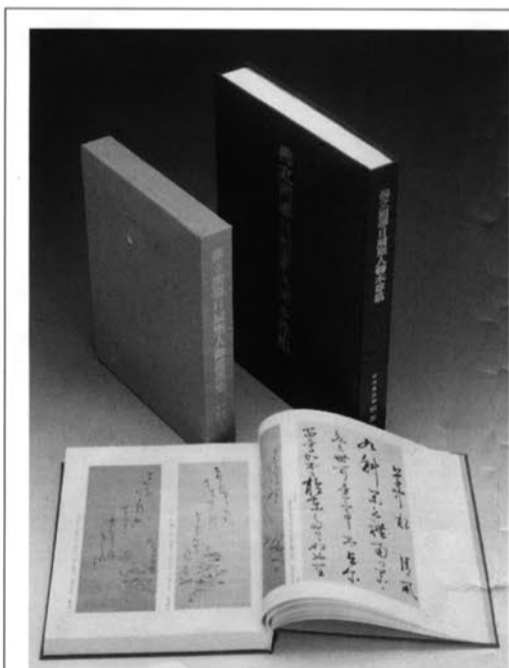


第一研修館竣工式（H11・3・5）

結び—報恩の誠あらわす時は今

以上の項目に亘って、報恩御奉公円成のため教講異体同心となって活

動しております。本門佛立宗は高祖日蓮大士立教開宗七百五十年を迎えるに当たり、宗



記念誌（上）佛立開導日蓮聖人御本尊集
（下）佛立開導日蓮聖人御遺墨集

門下立教開宗七百五十年慶讃記念事業について

昭和五十六年の宗祖第七百遠忌より十七年を経、立教開宗七百五十年まであと三年弱となった今、日蓮聖人門下連合会としては一体の様な慶讃事業が出来るのだろうか。本紙第十八号、第十九号に於いて特集した、青年の参加者の「七五〇に向けて」の中から各意見を抜粋してみた。

日蓮聖人門連だよりの拡充強化
門連の未来を担う各派の青年達が率直な議論を交わしながら編集発行している機関紙であるが、各派の結束紐帯に果たす役割は大きい。よって各派権信徒にも配布するといった拡充強化を目指す。

仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進
現在推進中であるが、東京国立博物館、京都博物館にて展覧会を開催すべく準備検討している。

布教の連合強化
門連各派が共同して、各派の連名により新聞やテレビ等に意見広告を発表していく。

教育事業の提携
門連各派の学林や研究機関が一堂に会し、門連大学と称して、祖師学、布教学、社会福祉学などの講座を開き研鑽を行う。

祖廟護持の組織強化
「祖廟中心」との門連の目的に則り、門連の輪番奉仕を以前の様に各派が一年交代で給仕させていた

比叡山横川定光院の参拝顕彰
宗祖が立教開宗前十二年余に亘り、研鑽された御遺蹟である横川の聖地に、全日蓮門下がごぞつて参拝顕彰しようとするもの。

各種出版物の刊行
各派の研究誌に発表されている論文等をまとめて一冊にして刊行し、各派の学術交流の一助とする。

海外布教の提携及び交流
各派の海外布教拠点の情報を共有し、門下として対応していく。

対外的な各種の運動
一天四海皆妙法の祖願達成に向けた様々なイベント「青年の翼」や「唱題行脚聖火リレー」等を行っていく。

門下連合青年会の結成
各派連携の原動力とも言える各派青年達の実行力を結集していく。

を終えるべく鋭意編集作業を進めていきます。さらに、佛立宗の教えを英語圏の人々に紹介するため、英訳研究班を設け、英訳作業を行っ

ていますが、今年には開導聖人の御指南をできる限り翻訳していく予定です。（佛立研究所）
（二）その他記念出版については検討進行中であります。

門挙げて高祖日蓮大士のご遺徳を偲び、大恩報謝の一念に徹し、全ての慶讃ご奉公は「高祖日蓮大士にお悦びいただくこと」でなければならぬと決定し、努力精進いたします。（文責 特別委員長 石田清尚）

- 日蓮聖人門下連合会**
- 目的
本会は日蓮聖人の理想を表現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。
 - 事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
 - 1、祖廟護持の組織強化
 - 2、教育事業の提携
 - 3、布教の連合強化
 - 4、懇談会・研究会・講演会等の開催
 - 5、各種出版物の刊行
 - 6、海外布教の提携及び交流
 - 7、対外的な各種の運動
 - 8、その他
 - 加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
顕本法華宗 法華宗陣門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会



舞見御中

平成十一年己卯

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>眞首竹嶋日香 執事長真保行宣 執事西山英仁 執事栗田孝正 執事高橋俊之 執事下間要一</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七一七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p> <p>眞首吉永日晴 総務大川定信 執事安東靖弘 執事山本晃道 執事津村乘信 執事小林松孝瑞</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一 電話 〇三三(七五)二二三三 FAX 〇三三(七五)二二三三</p> <p>眞首田中日淳 執事長市川智康</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二二)〇一〇一 FAX 〇五五六(二二)〇九四</p> <p>法主藤井日光 総務伊藤通明 役員一同</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一 電話 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住二世 眞有 井上日慶 事務局長 伊藤隆之</p>	<p>日蓮本宗 本山要法寺</p> <p>〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>眞首嘉儀日有 大学頭丹治日遠 執事長高見正弘 執事佐藤哲夫 執事岩崎廣義</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>眞首松本日望 執事長飯田信栄 役員一同</p>	<p>法華宗(眞門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四二)五七六二 FAX 〇七五(四四二)五六六六</p> <p>眞首真枝日世 執事長笹木研秀 執事本多信正 役員一同</p>
<p>日興上人御廟所 富士山本門寺</p> <p>日蓮宗大本山</p> <p>〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五八)二五二七</p> <p>眞首本間日諄 執事長井出教道</p>	<p>宗祖御誕生霊場 誕生寺</p> <p>日蓮宗大本山</p> <p>〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三 電話 〇四七〇(九五)二六二一</p> <p>眞首石川日命</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>日蓮宗大本山</p> <p>〒606-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入 電話 〇七五(四五二)三五二七</p> <p>眞首山田一光 執事長原光司</p>	<p>立教開宗之霊地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>立教開宗七五〇年慶讃団参奉行</p> <p>〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九五)二六二一</p> <p>別当 杉山日慎</p>
<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大楠町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六一</p> <p>眞首永田恵遠 参事 山田完修 同 新井智清 同 安藤信行 同 藤井照源 同 川合陽雄 同 二之部知孝</p>	<p>やくよけ祖師 堀之内妙法寺</p> <p>日蓮宗本山</p> <p>〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八 電話 〇三三(三三三)六二四一</p> <p>山主 駒野教格</p>	<p>久遠成院日親上人御霊窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六七 電話 〇七五(四四二)七九九九</p> <p>眞首金山日龍</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272-0813 千葉県市川市中山二―一―一 電話 〇四七(三三四)三三三三</p> <p>眞首長瀬日董 執事長富田義康 参事 関田智清 同 新井智清 同 植田智清 同 広野智清 同 土田智清 同 勝田智清 同 宏順智清</p>

門連時報

身延山祖廟参詣

理事会開催

本年度の身延山祖廟参詣および理事会が各派の代表者参加のもと五月三十一日に行われた。

当日午前十一時三十分、身延山西谷の常唱殿に集合した各派の代表は、撃鼓唱題にて祖廟ついで宗祖御草庵跡に参詣、法味言上を行った。

その後、一行は久遠寺新本堂において理事長導師のもと法味言上。次いで新書院にて伊藤通明総務より歓迎の御挨拶をいただき、久遠寺では、三月二十五日に前総務の藤井教雄師が法主となられ、伊藤総務を中心とした新内局が組局されたばかり。

昼食の後、参加者は宝物館等を自由拝観。午後二時より身延山大学会議室に会場を移して理事会を開催。慣例により永井理事長が議長となり議事進行。平成十年度事業報告、同決算、平成十一年度予算案、同事業計画案が承認された。

次に地方門連活動に関する件については、まず京都門下連合会杉若恵隆理事長より、続いて、大阪門下懇話会木下恵温理事長より種々報告が



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣 (H 11.5.31)

あった。それを受けて、地方門連の現状について種々意見が提起された。その中で地方門連の位置付け等について議論がなされ、予算の中には「地方門連結成準備費」との費目がありながら、未だ新たな地方門連結成に至らない現状や、各地の懇話会及び同様の組織にしても、そこに加盟の各派事情により全門連への正式参加に至らない等の指摘があった。今後は門連規約の改正も視野に入れながら、予算の編成も含めて地方門連の位置付けについて検討が必要であるとの方向が確認された。

次に立教開宗七五〇年慶讃記念事業に関する件については、各派代表よりそれぞれの立場から種々意見が述べられた。

現在までに「法華信仰者の芸術文化展」の開催が計画され、その実現に向けて国立博物館と門連の間に交渉が行われているが、各派の意識に温度差があり、「正式な出展の依頼状がなければ宗派として動くことはできない」とする意見や、「そういうことはまだ先の話で、まずどういった展示品を出展できるかのリストを国博に提出する必要がある」といった意見が述べられた。

結論としては、先に立正大学坂輪宣敬教授に依頼して出展リストの作成をお願いした経緯があるが、その第二次リストの作成を待つ国博との交渉に当たり、法華文化展の開催に向けて準備を進めていくことが確認された。

午後四時会議を終了し、宿所である下部ホテルに移動、身延山当局より齊藤邦昭庶務部長を交えてなかなか懇親会が行われ、翌、六月一日散会となった。

佛立青年教務会、応援

助行を全支部で展開

佛立青年教務会第18期の基本方針

本年度より高祖立教開宗七五〇年に向けて、「青年教務会員の力は誠に微力であり、経験も不足がちではあるが、一同何か宗門のお役に立たせて頂く」との認識を前提に「とにかく一歩を踏み出そう」ということになり、その結果次のような方針を打ち出すことになりました。

①全国各支部ごとに管内寺院よりのお助行の依頼を受けた場合は積極的にさせて頂く。

②同じく支庁・布教区等からの依頼についても、お助行に限らず、その他各種の大会・行事でもご公させて頂く。

洋上錬成道場の目的

この錬成道場の目的は、青年教務会員の異体同心を図るとともに、船上での講演会や参加者のグループ・ディスカッションで会員の資質向上に努め、そして何よりも高祖のご恩徳を偲ばせて頂く、小湊港沖での立ちのぼる朝日に向かっての「七五〇報恩ご奉公円成祈念船上暁天口唱会」をさせて頂こうというものであります。

七百回御遠諱ののり日蓮門下合同のサイパン島への洋上大学以来、この度の佛立宗だけの企画であります。以上、高祖立教開宗七五〇記念報恩ご奉公に少しでもお役に立つご奉公をとお考えました青年教務会の方針をご披露させて頂きました。

京都門連開宗会

比叡山大講堂で奉行

京都日蓮聖人門下連合会(杉若恵隆理事長)は、四月二十四日比叡山延暦寺大講堂に於いて、宗祖日蓮大聖人立教開宗会を奉行し、僧侶檀信徒約五百五十名が参加した。

参加者は、本山頂妙寺に集合、バス三台で出発、延暦寺に到着後、法華宗陣門流本山本陣寺貫首福井日進現下による「開宗会の意義」の講演を聞いた。福井貫首は「比叡山のご修行が題目を生んだ。七五〇に向け、祖師の心を伝えなければならぬ」と力説した。

法要は本山本陣寺貫首福井日進大聖人のご修行時代を偲び、その後、三十番神の大比叡大明神・小比叡大明神が祭祀されている、日吉大社を参拝、立教開宗会の日程を終了した。(藤井照源)

京都日蓮聖人門下青年会に

バレーボール部誕生

京都日蓮聖人門下青年会(嘉儀吉裕会長)は、五月二十三日設立試合が行われた。

六年前からスポーツを通じて門下青年の親睦を深める為に、藤井照源幹事(日蓮宗)が中心となって進められて来たが、この度、学生時代にバレーボールを含めたスポーツクラ

ブの出身僧侶が集まり今回の設立となった。

藤井幹事が小学校PTA会長時代に活躍した、地元小学校のママさんバレー・パパさんバレー、体育振興会バレーチームの協力を得て、今後体育館の会場や、対戦相手として運営していく事となった。

設立試合の当日、門下青年僧十名、



バレーボール部設立試合

立教開宗七百五十年慶讃
日蓮宗新聞社記念事業

宗祖御説法絵像

重要文化財 本山妙法華寺蔵 復刻掛軸限定頒布

日蓮聖人画像で重文指定を受けているのは、本説法図と、千葉県中山浄光院の『水鏡の御影』の二点のみで、身延山の『波木井の御影』とともに古来より名高い画像です。この貴重な掛軸を、玉澤妙法華寺さまのご配慮により限定頒布いたします。

ご予約からお届けまで約一ヵ月かかります

ご予約・お問い合わせは

日蓮宗新聞社 〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3
TEL 03-3755-5271 / FAX 03-3753-7028

復刻版所蔵録

立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として、各巻の復刻番号は、この復刻版所蔵録に登録し、丁寧に保管いたします。

軸装裂地 外廻し 竹屋町唐草古代袖
中廻し 龍に日蓮宗橋
一文字 小花唐草

軸 先 水晶代用 透金軸
装文/176cm×巾/72.8cm
軸寸/78cm

太巻二重箱 塗箱(カシュー塗)
12cm×12cm×85cm

特別限定頒価 **20万円**
(送料550円・消費税別)

限定復刻350幅
エディション番号入



